

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between maternal physical activity from pre-pregnancy to child-rearing and their children's physical activity in early childhood among Japanese

和文タイトル:

日本人における妊娠前から育児期までの母親の身体活動と幼児期の子どもの身体活動の関連

ユニットセンター(UC)等名: 宮城ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Epidemiology

年: 2024 DOI: 10.2188/jea.JE20240041

筆頭著者名: 山田 綾

所属 UC 名: 宮城ユニットセンター

目的:

日本人において、妊娠前から育児期までの母親の累積的な身体活動レベルが、幼児期の子どもの身体活動に与える影響を検討すること。さらに、各時点の母親の身体活動と子どもの身体活動の関連について比較すること。

方法:

対象者は、宮城ユニットセンターの追加調査に参加した 1,067 組の母子であった。母親の身体活動は、妊娠前、妊娠中、産後 1.5 年、3.5 年、5.5 年に質問票を用いて測定した。累積身体活動レベルは、各時点の身体活動カテゴリー(低、中、高)を得点化し、5 時点の合計点を四分位に分類した。子どもの身体活動は 5.5 歳時に質問票で測定した。ロジスティック回帰分析を用い、母親の年齢、BMI、社会経済状況および子どもの特徴などの交絡因子で調整し、母親の身体活動レベルにおける子どもの週 5 日以上 60 分以上の身体活動実施のオッズ比を算出した。

結果:

母親の累積身体活動レベルと子どもの身体活動レベルとの間に正の関連が認められた(傾向性 P 値 < 0.001)。第一四分位に対する調整後のオッズ比は、第二四分位で 1.28(95%信頼区間: 0.58-2.83)、第三四分位で 1.58(0.82-3.05)、第四四分位で 3.72 (2.07-6.67)であった。さらに、各時点の検討では、妊娠中(傾向性 P 値 = 0.031)および産後 5.5 年(傾向性 P 値 < 0.001)において、母子の身体活動に正の関連が認められた。妊娠前、産後 1.5 年および 3.5 年は、関連が認められなかった。

考察(研究の限界を含める):

妊娠前から育児期にわたる母親の累積的な身体活動レベルが高いほど、幼児期の子どもの身体活動レベルが高いことが示された。妊娠前から育児期にかけての各時点での母親の身体活動と異なる年齢における子どもの身体活動との関連を検討した先行研究では、母子の身体活動に正の関連が報告されており、本研究はこれらの知見をさらに拡大するものである。その一方で、各時点での母親の身体活動と子どもの身体活動の関連は一貫した結果が得られなかった。本研究の限界点として、対象者の選択に偏りがある可能性、母子の身体活動の測定を過小評価している可能性、子ども身体活動は母親が推測して回答していること、父親の要因などの未測定の交絡因子の存在があり、これらが母子の身体活動の関連の方向および強さに影響を及ぼす可能性がある。

結論:

日本人の母子において、妊娠前から育児期にかけて母親の身体活動レベルが高ければ、子どもの身体活動レベルも高かった。さらに、妊娠中と産後 5.5 年の母親の身体活動レベルは 5.5 歳のときの子どもの身体活動レベルと正の関連を示した。